

- ScholarOne Manuscripts™ ユーザーカンファレンス 2016 開催報告
- クリエイティブ・コモンズ・ライセンス (CCライセンス) とは？
- トムソン・ロイター IP & Science「Clarivate Analytics」として事業を開始



学術ジャーナルの 質と価値の向上のために

ユーザーカンファレンス 2016 開催レポート

10月18日に秋葉原コンベンションホールにて、5回目となる ScholarOne Manuscripts (以下S1M) ユーザーカンファレンスを開催いたしました。例年通り様々なテーマを取り上げましたが、ジャーナルの編集委員長や弁護士による講演等、初めての試みもありました。今号では、その概要をレポートします。

専門家にもっと聞きたい クリエイティブ・コモンズ

オープンアクセスのジャーナルを中心に、クリエイティブ・コモンズを採用している、あるいは採用を検討している学会様が増えています。しかし、「著作権に関する新しいルール」という漠然とした認識しかないというのが現状のようです。そこで、クリエイティブ・コモンズ・ジャパンの理事で弁護士の水野祐先生をお招きし、クリエイティブ・コモンズが従来の著作権制度に比べてどこが新しいのか、その仕組み、現況、メリットとデメリット等々を幅広く、具体例を挙げながらお話頂きました。出版等クリエイティブ分野に特化した弁護士ならではの分かりやすく踏み込んだ説明があり、講演後にはいくつかの学会様より、表示の仕方や条件を変更する際の著書の同意の取り方等、具体的な質問があり、それぞれに適切にお答え頂きました。

編集委員長が語る ジャーナルの課題と取り組み

ユーザーカンファレンスで初めて、編集委員長にもご登壇頂きました。杏林舎が編集のサポートを行なっている Journal of Occupational Health (JOH)

と日本産業衛生学会雑誌の編集委員長である堤明純先生です。

JOHが抱えていた課題とそれを解消するためにどのように取り組まれて来たかを時折ユーモアを混じえながらお話下さいました。実際の体験を基にしたお話には説得力があり、特に過去数年に比べ

があると考えているとのこと。改善の為には特に、査読者の数を増やし、トレーニングを行い、適切に評価することが大切であると述べられていました。

Clarivate Analytics (旧トムソン・ロイター IP & Science) からはお二人に発表して頂きました。棚橋佳子様は、トムソ

で述べられました。増田智子様は、学会の国際的な認知度を向上させる為のマーケティングについて、メール配信サービス WoSAC 等を含めて解説されました。

さらに、科学技術振興機構 (JST) からは、藤田隆様が発表され、現在試験的に公開している J-STAGE の評価版の新しい機能が紹介されました。

杏林舎からは4名が登壇し、査読依頼時の便利な機能と外部サービスを利用したオプション機能、査読あるいは査読者の評価と実績、それにまつわるサービス、そしてS1Mのバージョンアップ等についてご説明いたしました。また、論文の採用後から出版までのスムーズな、いわゆる「シームレスフロー」のご提案もさせて頂きました。

例年通り、ホワイエには講演内容に関連したポスターを展示いたしました。そしてカンファレンス終了後には、恒例の意見交換会が開きましたところ、多数の方々にご参加頂き、他ジャーナルの編集担当者様間で交流を図られていました。

5年に渡って毎年

開催し、ご好評を賜りましたユーザーカンファレンスは今回を一区切りと考えております。今後は別の形で情報の共有をさせて頂きたいと考えておりますので、更なるご愛顧をよろしくお願いいたします。



講演1
オープンアクセスと
クリエイティブ・コモンズ
水野 祐先生
(クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事/弁護士)



講演2
ワイリー社による査読に関するオンライン調査結果:
査読者の望むインセンティブとトレーニング
八幡 智雄氏
(ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社)



講演3
ジャーナル制作を通じた
研究者支援の原点
棚橋 佳子氏
(クラリベイト アナリティクス)



講演4
Journal of Occupational Health
(JOH) の取り組みと成果
堤 明純先生
(北里大学医学部公衆衛生学教授、日本産業衛生学会編集委員長)

て昨年は投稿数が増え、査読にかかる日数が少なくなった等改善を示すデータを発表された際には、参加者の皆様が興味深そうに聞き入られていたのが印象的でした。

データが表す 査読への期待と現況

ワイリー・パブリッシング・ジャパンの八幡智雄様には、査読と査読者に関して、Wiley社が行った大規模な査読に関する調査結果を提示しつつお話頂きました。それによると、大多数の研究者は査読を重要なものだと考え、まだまだ査読に対する期待度は高い。しかし、同時に、著書も査読者も査読の過程に改善の余地

ン・ロイター IP & Science 改め新会社「Clarivate Analytics」の概要を説明された後に、ジャーナルの引用状況、研究者のプロフィールの把握、ORCID との連携など、Web of Science の可能性につい





オープンアクセス (OA) とクリエイティブコモンズ (CC) MIZUNO, Tasuku (CityLights Law Office) 参照

先日 の S1M ユーザーカンファレンスにおきまして、水野祐氏に発表いただいたクリエイティブ・コモンズにつきまして、参加者の皆様から非常に多くの反響がございましたので、あらためてここでクリエイティブ・コモンズの基礎情報をご紹介します。

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは？

- さまざまなコンテンツやマテリアルの作者が、「この条件を守れば、私の作品を自由に利用してよい」と意思表示をするためのツール
- インターネット／デジタル技術を前提に、著作権者／著作権者に選択肢を増やす仕組み（著作権の放棄ではなく、留保しつつ一部を開放）
- 契約や権利処理のコストを削減し、合法的に作品の共有や継承を促す仕組み
- 国が作った法律ではなく、コンテンツを作り出した作者とそれを利用するユーザーとの間の契約により、コンテンツの届け方や使われ方を自発的に「デザイン」するための仕組み

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの種類

作品を利用（再配布や2次利用の公開等）するための4種類の条件があり、これらを組み合わせて全部で6種類CCライセンスがあります。権利者は、作品をどのように流通させたいかを考え、必要に応じて適切な組み合わせのライセンスを選ぶことになります。

オープンアクセスジャーナルをまとめたサイトDOAJ (Directory of Open Access Journals) に登録されているオープンアクセス誌の中では、約40%がクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用しています。その内訳でCC BYとCC BY-SAが2分しています。



表示

作品のクレジットを表示すること



非営利

営利目的での利用をしないこと



表示

作品のクレジットを表示すること



表示

原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示することを主な条件とし、改変はもちろん、営利目的での二次利用も許可される最も自由度の高いCCライセンス。



表示-非営利

原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ非営利目的であることを主な条件に、改変したり再配布したりすることができるCCライセンス。



継承

元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開すること



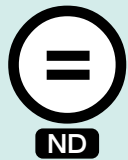
表示-継承

原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、改変した場合には元の作品と同じCCライセンス（このライセンス）で公開することを主な条件に、営利目的での二次利用も許可されるCCライセンス。



表示-非営利-継承

原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ非営利目的に限り、また改変を行った際には元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開することを主な条件に、改変したり再配布したりすることができるCCライセンス。



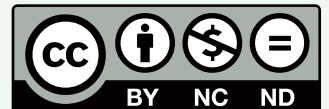
改変禁止

元の作品を改変しないこと



表示-改変禁止

原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ元の作品を改変しないことを主な条件に、営利目的での利用（転載、コピー、共有）が行えるCCライセンス。



表示-非営利-改変禁止

原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ非営利目的であり、そして元の作品を改変しないことを主な条件に、作品を自由に再配布できるCCライセンス。

トムソン・ロイター IP & Science、「Clarivate Analytics」として事業を開始

Clarivate Analytics

Formerly the IP & Science business of Thomson Reuters

S1Mの開発元であるトムソン・ロイター IP & Science 事業は、10月3日（米国時間）より、新しい独立したグローバル企業「Clarivate Analytics」として事業を開始しました。Clarivate Analyticsは、今後も変わらず、お客様がいち早く新しいアイデアを発見し、保護し、商品化することを可能にするべく、付加価値の高いソリューションを通じて、世界中のお客様に信頼性の高い情報とそこから得られる知見・洞察を提供してまいります。

編集後記

S1Mユーザーカンファレンス2016では、お忙しい中多くの皆様にご参加頂きまして誠にありがとうございました。「学術ジャーナルの質と価値の向上のために」のテーマのもと、幅広い内容でのプログラムが実現でき、ご発表いただきました方々にも感謝申し上げます。クリエイティブ・コモンズについては、後日多数の反響がございましたため、今号にも基礎情報の記事を掲載しましたのでは是非ご参照下さい。なお、5年に渡り開催してきましたS1Mユーザーカンファレンスは今回で一区切りとさせていただきますが、今後も別の形でのイベントを企画しておりますのでご期待ください。また、Thomson ReutersのIP & Science事業の体制変更に伴い、会社名がClarivate Analyticsに変更となりましたが、S1Mの製品仕様やスタッフは変わらず、今後も品質管理・機能向上などの取り組みが提供されますのでご安心ください。本紙の発行と同じ頃に次のバージョンアップが実施されます。概要はすでにリリースノートをご案内させていただきましたが、一層進化したS1Mを引き続きご愛顧いただければ幸いです。

S1M NEWS

2016年12月7日発行 第12号

発行

株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311
FAX. 03-3949-0230
URL. http://www.kyorin.co.jp

編集・制作・デザイン
E-mail

株式会社 杏林舎
s1mnl@kyorin.co.jp

©株式会社 杏林舎 本誌掲載の記事・写真・イラストレーション等の無断転載を禁じます。

次号 2017年 3月発行予定

Rate Reviewer と R-Score

Rate Reviewerとは編集委員が査読の質を評価するための機能です。設定すると査読結果の確認画面に査読への評価欄が表示されます。選択肢には点数を設定でき、これはレポート機能で取り出せるほか、平均点であるR-Scoreが査読者選出時に検索結果上で確認できます。

R-Scoreを上手に活用するためのポイント！

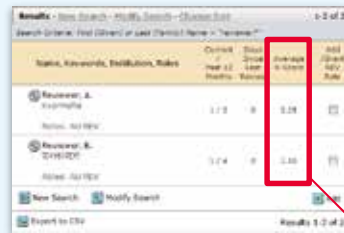
- 評価欄は点数化できる形式とする
- 設問ごとの点数の最大値と最小値を揃える
- データの継続性を保つため、設定後はなるべく設問を変更しない

Rate Reviewer

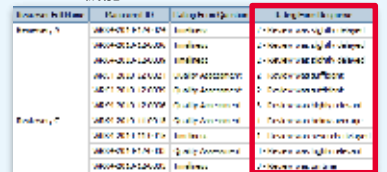


評価を入力すると

R-Score



レポート機能



査読者の検索結果やレポートに表示されます

こんにちは！学術ソリューション課の山田です。

おかげさまで第5回S1M UCが無事終了しました。思い入れのあるイベントが節目を迎えると、なかなか感慨深いものがありますね。さて、今回のテーマは先のカンファレンスでもご紹介した「Rate Reviewer」とそれに関連して「R-Score」です。

